

Abstract

患者の親に対する最新臨床技術の教育

Teaching parents advanced clinical skills

V. Vidler

他の多くの遺伝性慢性障害と同様、血友病の管理は一昔前に比べ大幅な進歩を遂げた。今や血友病小児のQOLは極めて良好である。しかし、これを現実のものとしている背景には、家庭で親(保護者)が経静脈療法を行っているという現実がある。必要とされる処置回数は2日に1度に及ぶケースもある。

植込み型静脈カテーテル(implantable venous access devices)の導入により、家庭で小児へ経静脈投与を行うことが可能になった。これは素人が行うにはかなり複雑な操作技術が要求されるため、親に対する包括的な教育と文書化されたマニュアルが必要である。

そのため、理論的解説から実地訓練までを網羅した教育指針が既に作成され、家庭環境の中で定期的にその評価が続けられている。

本指針は指導の正式な枠組みとなるだけでなく、患児と親の双方を精神的に支えることを容易にし、さらにその支えを計画的に提供することを可能とする。

る。

看護婦(士)は、これらの情報や教育内容についてプロフェッショナルとしてこれらの患者や親に説明する義務がある。本指針はトレーニングプロセスを明示し、規格化された均一な情報を提供している。したがって、看護婦はプロフェッショナルとしての義務を果たしたという確信を持つことができよう。

現時点では、素人にとって、植込み型静脈カテーテルに関する情報源はこれ以外にはない。本指針は、家庭で経静脈投与を必要とする他の慢性疾患患者に対しても貴重なものとなるであろう。

Table 1. Contents of the teaching package.

-
- Description of ports
 - Reasons for use
 - Procedure
 - Complications
 - Training programme
 - On-going assessment
-